

令和4年度第2回広島市公民館運営審議会 会議要旨

日時	令和4年11月18日(金) 午前10時00分～11時30分		
場所	広島市役所 本庁舎14階 第7会議室		
公開・非公開の別	公開	傍聴人	0人
出席者	委員 ：渡邊陽一、中尾常信、縄手淳子、西川富江、森重洋、岩元佳子、大坪真理子、山川肖美、脇谷孔一 事務局 ：末政市民局次長、田尾生涯学習課長、小松課長補佐、高木主査、中村主事 地域起こし推進課公民館担当課長 (区調整公民館長)：砂原課長(中区)、平野課長(東区)、浅木課長(南区)、倉本課長(西区)、中村課長(安佐南区)、森口課長(安佐北区)、女鳥課長(安芸区)、伊藤課長(佐伯区) (公財)広島市文化財団 ：国府田次長		
資料名	・令和4年度第2回広島市公民館運営審議会次第 ・資料1 令和5年度に向けた広島市公民館学習会の実施方針(案)について ・参考資料1 公民館学習会に関わる市の主な施策等について(抜粋) ・参考資料2 事業計画書及び事業報告書様式 ・参考資料3 広島市公民館運営審議会関係法令等(抜粋)		

議事(会議要旨)

1 開会

2 議事

(1) 委員長、副委員長の選任

委員長 山川 肖美 委員

副委員長 森重 洋 委員

(2) 令和5年度に向けた広島市公民館学習会の実施方針(案)について

〈説明〉

資料1に沿って説明(田尾生涯学習課長)

〈質疑等〉

脇谷委員

基本方針を読むと、多種多様に様々な課題に取り組むということで、多くの取組が具体的に示されている。参考資料1にもあるように広島市でも各部局で各々の分野において同様の取組がされている。例えば青少年の健全育成という分野でも公民館ではなく、他の部署においても取り組んでいる。なぜ公民館が今掲げたような事業に取り組むのか、公民館としての役割は何なのか、特色はどのようなかということ、職員が本当に認識しているのかなと思う。

ただ単に場所を提供する貸し館として事業を行うことが公民館事業なのではなく、むしろ期待を込めてのことだが、公民館が、人づくり・つながりづくりを地域の中でどのように担おうとしているのかが、もう少しストレートに伝わると良いと考える。

私自身、地域で青少年の健全育成のための活動をしており、一方で防犯の活動もしているが、その中で全く公民館の存在が見えてこない。実際は公民館を通じてつながっていくことで人がつながり、人が育っていく。地域の担い手が育つことこそが公民館の目標と考えるが、公民館としてどう考えられているのか、可能であればお聞きしたい。

田尾生涯学習課長

この実施方針については、今後公民館の存在がより前面に出るように工夫していきたいと考え

ている。

また、公民館の各事業については、各公民館がその地域のニーズに応じて、地域の方とも話し合いながら行っている。ただ、その中で公民館の存在が見えにくいのであれば、各公民館がしっかりとしないといけないと思うので、各公民館を通じて事業の検討をしていきたいと考えている。青少年に関する事業についても来年度に向けてしっかり考えていきたい。

事務局

青少年に関する事業について紹介させていただくと、前年度の審議会で古市公民館から報告させていただいた安佐南区内ネットワーク事業（うちの身近なSDGs～フィリピンの子どもたちに服を届けよう！～）で学生の方からの意見を聞きながら活動に繋がった事例もある。活動を進めることができていない内容については、今後の活動を検討させていただきたいと思う。

山川委員長

この資料を拝見する限り、様々な部局からの提案やそこに基づく計画の具現化を主にしようとしている中で、公民館が本当にやるべきことの整理がしっかりできているのかということを脇谷委員はお尋ねされたいのだと思う。

末政次長

逆に、公民館という建物や職員に期待されることがあれば伺いたい。今後は、自分たちの町は自分たちで作るという形で、地域の方も主体的にまちづくりに取り組んでいただきたい。

様々な課題があるが、それは行政だけの課題ではなく、地域の皆様が生活する上で解決していくこと等を行政も担っているのも、そういう意味で地域の方にも自分事としてやっていただくことを見つけてもらいたいと考える。

生きがいといったものは行政が押し付けるものでなく支えることであり、我々皆が生きていく上で大事にしていくことだと思う。今までは公民館が最初に教室や講座を開催した後で、地域の方々が意識を持たれて自分たちで勉強会や様々なサークルを作られるという流れを、脈々と続けてきた。

国や市が課題としていることのうち、公民館として主体的にやるべきことが何なのか、公民館に求められるところがあれば逆に教えていただきたい。

脇谷委員

公民館の特色として、社会の様々な課題に対しての網羅的な拠点となっているという側面があると思う。青少年育成、地域の防犯活動、防災活動、高齢者支援など、それぞれ専門分野があり、それを地域社会の拠点として個別にある専門分野を横に繋いでいく役割があると思う。人づくり、つながりづくりが地域づくり、まちづくりとなる。

住みやすい地域をつくるに当たって、公民館として、人と人とのつながりをどのように担っていくのか、事業を通じて人づくりや担い手づくりを本気でどのように取り組んでいるのかを示していただくと大変心強いと思う。事業に携わっている公民館職員の力をしっかりつけていただくこと、目の前の活動だけで終わるのではなく、人づくり、つながりづくりという役割を職員自らが担っているということを自覚して、より一層、地域へ出向いていただく。地域に困っている人がいた時に、地域でこういう人材がいるのでそこをつなげてみてはどうか、というようなコーディネ

ーターとしての役割を職員の方にやっていただくと嬉しい、という思いで申し上げた。

市民に対しても地域に対しても、私達はこれをやりましょうというのがダイレクトに伝わると良いと考える。

山川委員長

公民館としてやらないといけない地域課題はどんどん増えてくる。公民館職員の方の役割を明示して、向かっていく方向として、人づくりということを言っていた。暮らしの質を上げてそこに住む方たちが誰一人として取り残されない形で、暮らしやすい地域を作っていくようなこともお手伝いもされていると思う。直接する場合もあれば、お手伝いをする人を育成する形もあると思う。ここに書いてある内容を消化するのではなく、公民館の役割を明示することが大切であると思う。

森重副委員長

基本方針にたくさん書いてあるが、それを理解した上で、職員が取り組むことは必要だと思う。そのために研修が必要である。公民館だけで地域課題を解決することは難しいから、支援という言葉がずっと記載されている。

地域の人たちと協力して何かをすることがある。例えばPTA、子ども会、女性会等と書いてあるが、これらの団体は公民館が作るものではない。それぞれの団体が活発に活動することがつながりづくりの条件である。地域の各々の団体がしっかり活動していないと公民館と結びつかない。

公民館が事業について、一生懸命、地域や社会教育団体へ発信しても、トップの方は知っているが下の方は知らない、ただ行事に参加して終わっているのではないかと思う。公民館職員が努力していることがなかなか伝わりにくいのではないかと思う。

山川委員長

情報共有いただける範囲でよいので、一つは職員研修をどのように実施しているのか、もう一つは地域の中で他団体との協働や対話をどのようにしているのか、ご発言いただきたい。

中村古市公民館長

現場レベルで申し上げると、ひと・まちネットワーク部で事業の研修も年間を通して取り組んでおり、公民館職員の事業企画や立案能力の向上に係る研修も実施している。今年も、オンラインやZoomについて学習する機会を設けており、ICTに係る技術の習得が重要だと認識している。それから地域団体との協働についても職員は認識しており、各公民館の主催事業のうち、PTAや女性会、子ども会などと連携して企画している事業が多い。会議に出席して地域団体の皆様から情報をいただいたり、職員が日常のコミュニケーションの中から地域の皆様のニーズを拾い頑張っている。

昨年度、学生と連携したSDGsに係る事業（うちの身近なSDGs～フィリピンの子どもたちに服を届けよう！～）を報告させていただいた後日談になるが、今年は防災をテーマに企業や学生、社会福祉協議会と区内ネットワーク事業を実施した。併せて今回、八木地区にある復興交流館とのつながりができ、事業を維持することができた。公民館職員は人と人をつなげる努力をしており、引き続き努力していきたい。

国府田広島市文化財団次長

ひと・まちネットワーク部として、公民館だけでなく、全体ですべき研修を年に何回か実施している。ICT関係の知識を得ることが難しいと各職員から要望があったため、今年の研修に組み込み計画している。事業関係の研修に加え、施設管理や施設の申請受付等、全体で行う研修についてはひとまず、ひと・まちネットワーク部が数回実施し、その他は区ごとに調整館で区内の職員を集め、研修を実施している。

大坪委員

私は現場で関わって得た体験や考え方をお話したい。現在、近隣の幼稚園で週に1回程度、小さな子供さんと接したり、メンターやファミリーサポートなどもさせていただいている。最近の核家族化の中で、子供の教育や子育てに悩んだり迷っているシングルの方が多く、大変な思いをされていると感じる。

私は公民館が大好きで毎日のように通っているが、私の周りの人でも公民館というと行政の施設と感じていて、公民館に行ったことがないという人が意外と多く驚いたことがある。

公民館活動は様々であるが、まずは、公民館は楽しい所でいろいろな情報がある所だということを皆に知ってもらうことが一番大事だと思う。

コロナにより公民館活動ができなかった時に生きがい無くしたという人がいた。コロナの感染状況が落ち着いて、様々な活動が再開し始めると、やはり人と人とのつながりが大事だということに皆が気付いた。町内会、子供会や社会福祉協議会等の地域団体が人と人とのつながりについて考え始めているので、最初のつながりをコーディネートする役割を公民館が担い、堅苦しくなく気軽に参加できる講座を開催すると良いと思う。

私は公民館の「この街に暮らしたいプロジェクト」で10年前から活動している。最初は職員の方が主導で私はそこにくっついて活動していたが、職員の方が転勤されて自分達でやらなければならなくなり、現在は私達が主導して活動している。

最初は公民館に主導していただくと参加しやすく、自然と自分達が自信を持って活動していけるような場となると思う。まずは、公民館は堅苦しい所ではないと知ってもらい、公民館にどんなことをしてもらいたいかなアンケートを取り、良い講座や活動を考えてもらいたい。

山川委員長

普段、公民館職員は活動の前面に出るプレーヤーではなく、黒子に近い活動なので、見えづらいところもあると思う。しかし、今回のコロナ禍で、日々、人と人をつないだり、孤立化しがちな人へ声かけ等をしている公民館職員の役割や価値を再確認できた。

公民館はこう使えとか、公民館でこういうことができるということを見える化して、地域の人に向けて発信できるとよい。

縄手委員

公民館は多くの事業をされている。年度末には報告書を提出し次年度の事業計画も立てないといけない。令和5年度からはICTの活用のための事業も必須事業になる。必須事業も増え、事業数も増やさなければならず、公民館にとっては大変な時代になったと心配している。

砂原中央公民館長

確かに実態として、職員数が少なく大変だということもある。ＩＣＴの事業については、必須事業でなくても以前から実施しているものもある。今まで実施していたＩＣＴ関連事業があるので、主催事業については極端に負担が増えないと思う。

平野二葉公民館長

この事業体系は分野が幅広く、職員の取組が手薄になるのではないかと考える。職員が全ての事業に対して専門知識を持つことは難しいので、職員同士の連携を重視し、各々の分野での情報を共有しながら事業を進めている。職員にはそれぞれの得意分野を極めて自分の強みにするように言っている。それを他の公民館や他の職員と情報共有し、組織全体として知識を広くし豊富な内容にしていく形で事業を進めている。

渡辺委員

学校現場の立場からお話させていただく。アンケート結果から言うと、自己肯定感が低い子供達が以前に比べて多いというのが現状である。以前から民間の方と小学校、中学校が共同して様々な行事を実施する中で、地域の方と子供達がつながり、そこで自己肯定感が少しずつ高まっている。このことを有難いと思っている。学区の公民館で子供向けの青少年の健全育成の支援に関するイベントを企画していただいている中で、ＩＣＴ活用のための事業に関して私が個人的に思っていることについて、子供達はパソコン、タブレット、スマホの操作が得意なので、例えば公民館で高齢者の方向けに講座を開催するときに、小・中学生にサポーターとして声をかけていただいたら、十分にサポートできると思う。核家族化の中で、高齢者の方とつながる経験のない子供も多いので、温かい絆が深まると思う。

夏休みや冬休み等の長期休暇の中で、主体的に児童や生徒が参加できるような場を設けていただければ嬉しい。

岩元委員

実施方針はコロナが始まる前の考えで、コロナが始まった頃に制定された形だと思うが、コロナで一旦途絶えた活動がたくさんあると思う。つなぎ直している真最中に、このコロナ前と変わらない方針を実施することは本当に大変だろうと思った。子供達による地域貢献活動等を公民館がつかないでくれていると思うが、コロナにより、生徒も先生も公民館の職員の方も、その地域貢献活動というものを経験した人がいないという現状もあると思う。皆、卒業したり異動したりして、その地域で行われている活動について経験者がいない中で、どのようなご苦労があるかが見えたら良いと考える。

一点、公民館でコミュニケーションの仕方の支援について、どういうことをされているのかを知りたい。家庭教育について、親子だけではなく、祖父母世代の方や地域の高齢者の方などが子供達とどう関わっていいのか、どのようなコミュニケーションをとっていいのか分からないという声をよく聞く。高齢者と子供達とが関わる時のノウハウやコミュニケーションの仕方に支援があれば良いのではないかと考える。そうすれば、子供達が地域貢献活動をすることによって、地域の方に感謝されることが自己肯定感の向上につながり、又、人と人とのつながりもより良いものになる。

もう一点、公民館は様々な事業をしているが新聞を取っていないと情報が入ってこない。若い

世代の方は新聞を取っていない人がとても多く、公民館が時間をかけて知恵を絞って事業をやっていることを知らない人が多いので、インスタグラムなどSNSを使った発信方法に挑戦すればよいのではないかと感じた。

砂原中央公民館長

SNSを活用している公民館がかなり増えている。中央公民館でいえばフェイスブックを使っており、インスタグラムを使用している館や、ラインを使用している館もある。当然であるが、ホームページは全館で作成している。新聞に挟み込む公民館だよりも代わるものとして活用されていると思う。

山川委員長

世羅町には元は公民館であった自治振興センターという施設がある。ある自治振興センターでは職員の方がラインを使ってCM部を作り、様々な情報を流している。ただ、流すだけだと受け取らないので、スマホ講座を実施し、そのときにCM部のラインを教える。そうした過程の中で、地区の方や高齢者の方が、スマホを活用したりラインを受け取りやすくなり、情報や活動が広がりをみせている。様々な方法があっても、どう届けるかがポイントであると考えている。

中尾委員

公民館職員の方は黒子だと言われたが、私は決してそうではないと思う。温品の歴史を訪ねる会があるが、歴史講座は職員が主導し企画してくれる。

私は、公民館運営委員会とか幼稚園、小学校、中学校の運営委員会の委員もしており、それぞれの会合に出るが、ふれあいクリーン大作戦では中学生が主体となっており、世代間の交流もそこでできているのではないと思う。クリーン作戦は2年間でできていなかったが3年ぶりに開き、その中で子供達との交流も継続している。

自主防災の団体にも入っているが、公民館まつりの中で、自主防災の担当の方が大規模に車中泊や分散避難の展示をされた。子供達も興味を示し、いろいろ聞いたりして、公民館まつりがきっかけでつながりが持てたのではないと思う。

山川委員長

今、発言いただいた防災について、温品公民館では、地域の人達が集まる公民館まつりを舞台として、世代間がつながっていくようなことも既にされていることや防災士の方が最初に核となって地域の方や子供達も一緒に活動していることなども伺っている。他の地域でも必要としている方法なので、この場が知恵を共有する場になればいいと思う。

西川委員

3年ぶりに公民館まつりを開催した。例年は野菜を売ったりお餅をついたりするが、コロナ禍ということもあり、館長が心配されて学習グループの作品展示とステージを使った子供神楽の発表をして、200人が集まった。それも全部職員の方がコロナの感染予防のために入口で受付や検温をするなどの手配をしてくれた。

職員の方は4名おり、実際の公民館まつりを経験されている方は1名しか残っていなかったが、公民館まつりをすることによって、職員の方も勉強になったと思う。そういうことでつなげてい

くことが大事なことだと感じた。それともう一つ、スポーツ推進員として公民館と共催で子供を集めて、いろんなスポーツをする活動を20年以上やっている。子供が来ないときもあり、やめたいと思ったこともあるが、今も続けている。夜の卓球でも、不登校の中学生が参加しているが、活動を通じて顔見知りになり話をするようになって、新しい友達ができた。こういうこともあるので皆さんに知っていただきたいと思い報告させていただいた。

山川委員長

先ほどの私の黒子発言については、縁の下の方の力持ちであり、主役は住民の方でそれを支えることで、時には公民館職員の方も一緒にプレーヤーとして演じられることもあると思う。実は見えないところで公民館職員は動いている。もう少し公民館職員の活躍が見えるようになるといいというのがここにいる私達の願いだと受け止めている。

森重副委員長

公民館の広報で行事をした後のことをもう少し発信していただければいいのではないかとと思う。その行事がどうだったのかという広報があれば公民館をよく知ってもらえるのではないかとと思う。

山川委員長

総括させていただきたい。一つは、今日皆さんにご意見いただいたことを来年度の公民館学習会実施方針にすぐに反映させることが難しいものもあるが、今すぐにできそうなことはぜひ反映していただきたい。もう一つは最初に脇谷委員からもあったように、公民館職員はどういう役割を果たすのか、実施方針そのものがこういう書き方でいいのかなど、このあり方そのものの見直しについて、少し時間をかけた形で意見をいただければと思う。例えばこれをやることで、地域や人をどのようにしていきたいか、目指すところをしっかりと最初に確認する部分を入れるとか、公民館の職員の役割はどういうもので、住民の方達と一緒にこういうことをやりたいということも記載する。あるいは、これでは地域の方には伝わりにくいところを、公民館からどのように分かりやすい伝えるかなど、その辺りについて長期的視野でこの実施方針のあり方について継続して議論したいと思う。

(3) その他

公民館事業の評価について

参考資料2に沿って説明（田尾生涯学習課長）

3 閉会

山川委員長

長時間になったが、熱心にご意見、ご支援いただいた。終了予定時刻になったのでこれをもって本日の会議を閉会する。